

【回答提出先】 茨城県保健医療部医療局医療人材課 医師確保グループ 御中  
E-mail: [i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp](mailto:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp)

【回答者情報】	二次医療圏	鹿行保健医療圏
	担当者所属	潮来保健所地域保健推進室
	担当者職氏名	係長 林 隆司
	電話番号(内線)	0299-66-2115
	Eメールアドレス	itaho01@pref.ibaraki.lg.jp

色付きのセルに入力してください。

### 令和4年度医師派遣調整に係る医師派遣要望調査

【調査対象】

- 第7次保健医療計画に位置付けられる5疾病・5事業のうち、「がん、脳卒中及び心血管疾患」並びに「救急医療、周産期医療及び小児医療」の機能を担う茨城県内の病院 計71病院(※別紙1参照)

【調査基準日】

- 令和4年4月1日現在

【留意事項】

- 短時間正規雇用と非常勤は常勤換算の上、記載してください。常勤換算の算出方法は、当該医師の1週間の勤務時間を、各病院で定める通常の1週間の勤務時間で除し、小数点以下第2位を四捨五入の上、記載してください。
- 該当する診療科がない場合は、読み替えが可能な最も近い診療科名を選択してください。なお、読み替えが困難な場合には、「その他」に計上し、( )に診療科名を記入してください。
- 複数の診療科に従事している医師がいる場合は、そのうちの主たる従事先の診療科にのみ、当該医師の全ての勤務時間を計上してください。
- 初期臨床研修医は、本調査の対象外のため、計上しないでください。
- 問2における病院・診療科ごとの医師数について、個票問1と一致しているか確認してください。

問1 地域医療構想調整会議における議論の状況について御回答ください。

(1) 茨城県地域医療構想(平成28年12月策定)における二次医療圏内の政策医療の現状及び課題

【流出入】

- 高度急性期については、隣接する水戸、土浦、千葉県香取海浜の各構想区域へ多くの患者が流出しています。また、急性期においても水戸、土浦、つくば、取手・竜ヶ崎、千葉県の香取海浜の各構想区域に流出しています。

【医療提供体制】

- 脳卒中、急性心筋梗塞の患者が水戸、土浦、千葉県の香取海浜の各構想区域に流出している現状にあり、急性期の医療提供体制のなお一層の充実・強化が必要です。
- 医師、歯科医師、薬剤師、看護師が不足しており、特に医師不足が顕著です。
- 深刻な医師不足を背景に公的病院が休眠病床を抱え、本来果たすべき二次救急医療を十分に担えていない現状があります。特に鹿行南部地域は、二次救急医療体制の低下が著しく、白十字総合病院および小山記念病院への救急医療の負担が大きい現状にあります。
- 救急搬送に時間がかかっています。

(2) その後の調整会議における議論や社会情勢の変化等により新たに生じた課題等

特に変化がないと思われる

(3) 上記の課題に対する医療圏としての対応方針、医療機能の拠点化・集約化に向けた今後の方向性

【流出入】

- ・令和3年度に地域医療構想調整会議及びワーキング会において協議を行い、救急医療体制については地域として一定の合意を得られた。
- ・救急医療体制の整備に向けて各医療機関が必要とする医師の派遣を要望している。

(4) 課題解決に向けた各政策医療分野における各医療機関の拠点化・集約化・役割分担・連携・機能分化の方向性

政策医療分野	医療機能の拠点化・集約化、各医療機関の役割分担・連携・機能分化の方向性 ※機能強化する医療機関についてのみでなく、それに伴う他の医療機関の対応についても記載願います
がん	■ 役割分担について協議を行っておらず、今後継続的な協議が必要。 (参考) 地域がん診療病院: 小山記念病院
脳卒中	■ 役割分担について合意に至っておらず、継続して協議が必要。
心血管疾患	■ 役割分担について合意に至っておらず、継続して協議が必要。
救急医療	■ 救急搬送受入件数について、地域全体で年間2,000件の増加を目標に取り組む。 ■ 上記目標の達成に向けて、各医療機関が必要な体制整備に取り組む。 ■ 当調整会議としては、当該体制整備に向けて各医療機関が必要とする医師について、派遣を地域医療対策協議会に対して要望する。
周産期医療	
小児救急医療	

問2 問1を踏まえ、医療圏としてR5年度に医師派遣が必要な病院・診療科・医師数と派遣要望の優先順位を記載してください。併せて、当該診療科のR3年度中の患者数を記載してください  
※個票シートとの整合性にご留意ください。

病院名	診療科 ※プルダウンで選択 (その他を選択した場合は 自由記載欄に科名を記載)	政策医療分野 ※プルダウン選択	医師数			優先順位	R3年度 外来患者 延べ数	医師派遣が必要な理由
			現員数 (個票問1(1))	増(減)員数 (個票問1(2))	派遣要望 (個票問1(3))			
小山記念病院	消化器内科(胃腸内科)	救急医療	3	0	2	1-1	29,087	【消化器内科概況】 2021年度に消化器内科医2名が退職となりました。また、院長(池田)は消化器内科医ですが、昨年度より管理業務に専念しており、次に示す業務をはじめとする臨床業務からは遠ざかっています。従いまして、入院患者の消化器内科診療にあたる医師は3名(若山、長嶺、阿部)です。(内視鏡科医師は別に2名(細谷、佐藤)在籍、検査業務に専従) (消化管内視鏡検査に関して) 内視鏡検査実施件数も増加しており、上部内視鏡件数は2021年度実績で、3,062件(そのほか健診内視鏡3,418件)、下部内視鏡件数は1,940件となっております。 また、治療的内視鏡検査件数は、1,049件となっております。これらの検査を実施するにあたり、非常勤の消化器内科医師を11名(常勤換算値:1.8名)採用しております。 (がん化学療法に関して) 消化器がん患者(胃、大腸、肝・胆・膵がん患者)は、化学療法施行件数全体の約60%を占めております。以前は外科医がその業務にあたっていました。現在はその半数以上を消化器内科医が担当しております。 地域がん診療病院としての質を保ち、地域のがん患者の受け入れを強化するため、がん化学療法業務を内科医師に更に移管することが不可欠であると考えております。 (内科系オンコロールと救急お断りの実情) 内視鏡手術による緊急対応は年間365件となっております。 これらの患者が同時に発生した場合や、予定の内視鏡処置を施行中に、上記のような患者が搬送された場合、その対応に難渋します。(医師の手が空いていないために対応が困難となるため。) ➡ 上記の業務を遂行するため、消化器内科業務に専従する医師2名増員が必要であると考えます。
小山記念病院	呼吸器内科	救急医療	2	0	1	1-2	9,776	【呼吸器内科概況】 鹿行地域の二次救急病院で常勤の呼吸器内科専門医を擁している医療機関は当院のみです。当該科を受診する患者は増加の一途を辿っており、2021年度の月間延べ外来患者数は平均810名(2020年度:580名)、新規入院患者数は年間696名(2020年度:493名)となっております。 当院には常勤医が2名在籍しておりますが、うち1名は小さな子どもを持つ女性医師であり、今後もフルタイムでの勤務が見込めない状況です。従いまして、夜間のオンコロール体制は実質医師1名で担っている状況です。 (検査等の実績について) 気管支鏡検査実施件数は、2021年実績で92件となっております。 (がん化学療法について) 肺がん患者の受け入れを積極的に進めています。(肺がん化学療法件数:延べ261件、実人数37名) (その他) 先般の新型コロナウイルス感染症(当院では中等症患者も入院診療)を含む、感染症科疾患の全てを呼吸器内科で診療しております。 抗菌薬適正使用支援チームの活動をはじめ、呼吸器内科医師1名にかかる業務が増加しております。 ➡ 上記のことから、肺がん診療を主とした呼吸器内科診療に専従する医師2名の増員が必要であると考えます。
					1	2		
小山記念病院	泌尿器科	救急医療	2	0	1	2	14,332	【泌尿器科概況】 泌尿器科患者について、外来患者延数が1,194名/月(2020年度は1,052名/月)、新規入院患者数が545名/年(2020年度は492名/月)と増加傾向が続いております。 これをカバーするため、非常勤医師6名(常勤換算:1.5名)を雇用しております。常勤医師1名は指導医ですが、高齢であるため、緊急対応やオンコロールについては免除しており、実質的には医師1名による患者対応が多くなっております。 (手術実績について) 2021年度:483件、2020年度:438件、2019年度:358件と患者数の増加と共に増加傾向です。 (がん化学療法について) 2021年度の泌尿器領域のがん化学療法は103件、施行実人数は20名となっております。左記の他、前立腺がんに対するホルモン療法実施中の患者を多数抱えております。(対象は尿路上皮がん、前立腺がん、腎細胞がん) ➡ 上記のことから、泌尿器がん診療を含む、泌尿器科診療に専従する医師1名の増員が必要であると考えます。
白十字総合病院	全科(総合診療科)	救急医療	0	0	2	1-1	132,776	救急搬送要請に対して迅速に対応する事が望まれている。ケアミック型の当院には特に高齢患者さんの受診が多く合併症を有する、多様な症例の患者さんである。当院の救急車収容率は概ね6割台であるが、多様な症例に対応できる総合診療医が加わることで救急部門の充実が図られる。現在その役割を担う中心は内科であるが、その勤務状況は極めて厳しく疲弊しており、充実の視点もさることながら、個々の負担軽減の視点で医師補充を希望するものである。
白十字総合病院	整形外科	救急医療	1	0	1	1-2	13,823	鹿島臨海工業地帯に立地しており、労働災害、交通外傷も多い地域であるが救急搬送要請に対しては医師の体制面の理由から、緊急手術等が想定される重症例に対してやむを得ず応需となるケースが多い。常勤医は日本医科大学のリウマチ科出身であり一般整形外科手術の他リウマチ疾患に伴う関節手術も大学の非常勤医師と連携をとり積極的に行っている。 内科常勤医のうち1名はリウマチ専門医であり整形外科とも協力しリウマチ疾患の治療にあたっている。ここに常勤の整形外科増員があると対応できる手術対象も増え、救急車対応や夜間の骨折対応も可能となることが期待できる。整形外科医の全科当直回数を減らすことにより手術へ専念することも期待される。
神栖済生会病院	呼吸器内科	救急医療	0.4	0	2	1-1	2,232	救急対応の充実、感染症の流行や鹿島コンビナートに隣接することによる呼吸器に係る労働災害への対応が不可欠であり、気管支鏡等を使用した検査および治療など、呼吸器内科医の配置が必要であるため、要望。
神栖済生会病院	消化器内科(胃腸内科)	救急医療	0	0	1	1-2	12,464	緊急外来の充実を図るべく緊急内視鏡および緊急手術の対応を可能としたいが、現状、消化器内科領域を外科がカバーしているため受入に限界が見られる。緊急症例に対応できるよう消化器内科医を要望。
					1	2		
神栖済生会病院	循環器内科	心血管疾患	5.2	-1	2	2	7,654	現在、循環器内科においては、心カテ対応医師が2名であり、うち1名が、今年度末で退職予定。今後心カテ対応医師が1名体制となる予定の循環器内科については、カテーテル治療及び検査をはじめとする診療体制維持等のため医師確保が不可欠であるため、循環器内科医を要望。
神栖済生会病院	脳神経外科	小児医療	0.2	0	2	2	2,865	小児救急拠点病院として365日24時間の救急受け入れを実施。その中で、小児の転倒、転落等については、頭部外傷等を診断できる専門医不在のため圏外をはじめとする他院へ搬送せざるを得ない状況であるため脳神経外科医の配置を望む声が高い。また、成人の交通事故、頭部外傷等についても同様の状況から脳外科医を要望。
神栖済生会病院	麻酔科	救急医療	1.1	0	1	2	529	麻酔科医が1名体制であるため緊急手術の増加等に対応できない状況。なお、手術件数は、地域の需要が多い消化器外科、整形外科を中心に年間1,300件とここ数年で倍増していることから、麻酔科医の派遣を要望。
神栖済生会病院	泌尿器科	がん	1.1	0	1	2	6,167	常勤医1名で対応中の泌尿器科については、検査をはじめとする診療体制維持等のため医師確保が不可欠であり、ここ数年、2次健診者の受診が増加していることから、泌尿器科医の派遣を要望。

※自由記載欄(その他、または表に記入できない場合)

調査は以上です。御協力ありがとうございました。